

地球の恵みを、社会の望みに。

 **エアウォーター株式会社**

証券コード:4088

# AIR WATER REPORT

## 第23期 | 中間 | 株主報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

### CONTENTS

株主の皆様へ	01
新中期経営計画(概要)	03
セグメント概況	05
【特集】	
スマート社会、資源循環型社会の 実現に貢献する「地球環境」	07
超高齢社会において人々の暮らし に寄り添う「ウェルネス」	09
インフォメーション	裏表紙



## 長期ビジョン「terrAWell 30」

「地球環境」と「ウェルネス」2つの成長軸で  
社会課題の解決を通じた、企業価値の創造を実現

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは本年4月の大規模な組織改革を経て、2030年度に向けた長期ビジョン「terrAWell 30」を公表しました。世界的な社会課題を踏まえた2つの成長軸である「地球環境」と「ウェルネス」をエア・ウォーターがつなぐという思いが込められています。

2030年度までの期間を「第3の創業」と位置付け、「多様な事業、人材、技術」を掛け合わせることで生まれるシナジーと地域の事業基盤の活用によって、「社会課題の解決を通じた新たな企業価値の創造」を実現し、経済価値と社会価値を両立した企業価値の最大化を目指してまいります。

また、当社グループは、2022年度から2024年度までの3か年を実行期間とする中期経営計画「terrAWell 30 1st stage」を策定しました。当社グループ全体の経営資源を最適配分し、収益力強化はもちろん、成長領域の拡大、新規事業の創出を実現する方針です。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは、本社組織とグループ会社群が一体となった経営体制を構築し、インド・北米

の産業ガス分野やエレクトロニクス関連分野をはじめとした成長領域の拡大、ウェルネス領域を中心とした既存事業の収益力強化、さらに脱炭素関連をはじめとした新事業の育成に取り組んでまいりました。

また、エネルギーや各種原材料をはじめとしたコスト上昇が継続する中、事業全般において、生産・物流面の効率化をはじめとしたコスト削減とともに、徹底した価格是正に努めました。その結果、販売価格の上昇などを背景に、すべての事業セグメントで増収となりました。

特に、「ヘルス&セーフティー」と「アグリ&フーズ」がコロナ禍を経て変化したマーケットに対し、それぞれの成長戦略を着実に実行したことで前年同期を上回る結果となり、全社業績を下支えしました。

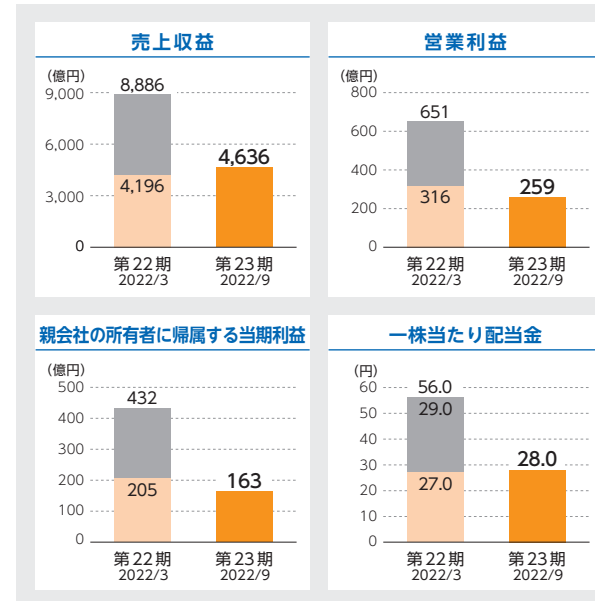
しかし、FIT（再生可能エネルギーの固定価格買取）制度を利用した電力事業において、発電燃料となる木質バイオマスや石炭の価格に加え、海上輸送コストが急激に上昇した影響を大きく受けました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上収益は4,636億6千6百万円（前年同期比110.5%）、営業利益259億2千5百万円（前年同期比81.9%）、親会社の所有者に帰属する当期利益は163億3千6百万円（前年同期比79.3%）となりました。

なお、当事業年度の中間配当につきまして、上半期の業績と配当方針を踏まえ前事業年度から1円増配の1株当たり28円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 連結業績ハイライト ■ 期末 ■ 第2四半期



## 経営理念



創業者精神を持って  
空気、水、そして地球にかかわる  
事業の創造と発展に、英知を結集する

## サステナブルビジョン

2050年 エア・ウォーターグループの目指す姿

地球、社会との共生により循環型社会を実現する

- 地球環境および社会の変化に対応し、経済価値と社会価値を持続的に提供する
- 企業活動を通じて資源循環型社会を実現し、環境負荷をゼロ、さらに地球環境を再生する
- 地域社会、顧客から選ばれ続け、働く人々のWell-beingを実現する

# 新中期経営計画(概要)

## terrAWell30 1st stage

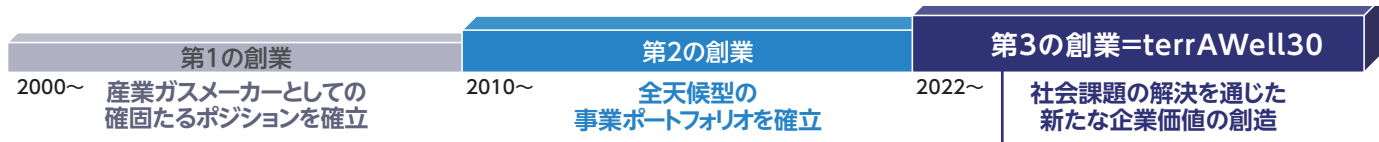
Terraはラテン語で「地球」、Wellは「Wellness=健やかな暮らし」  
「地球環境」と「ウェルネス」をAWがつなぐ  
パーパス「地球の恵みを、社会の望みに。」のもと  
社会課題の解決に貢献し、成長していく

### 2030年に向けて 「第3の創業」

AWグループは、2030年度までの期間を「第3の創業」とし、エア・ウォーター発足からの約20年間で培った「多様な事業、人材、技術」を創造的に掛け合わせて生まれるシナジーによって「社会課題の解決を通じた新たな企業価値の創造」を実現し、経済価値と社会価値を両立した企業価値の最大化を目指してまいります。

#### 【2030年に目指す姿】

<b>事業拡大</b>
売上収益：1兆6,000億円 内、海外売上収益比率20%
<b>収益性の向上</b>
営業利益：1,600億円 売上収益営業利益率：10%
<b>資本効率性の向上</b>
ROE：安定的に10%以上 ROIC：安定的に7%以上



#### 「第3の創業」の基本方針

- 多様な事業領域の方向性を成長軸「地球環境」「ウェルネス」に統合
- 「多様な事業、人材、技術」と「地域密着の事業基盤」を武器にシナジー創出を最大化
- 成長と投資の好循環

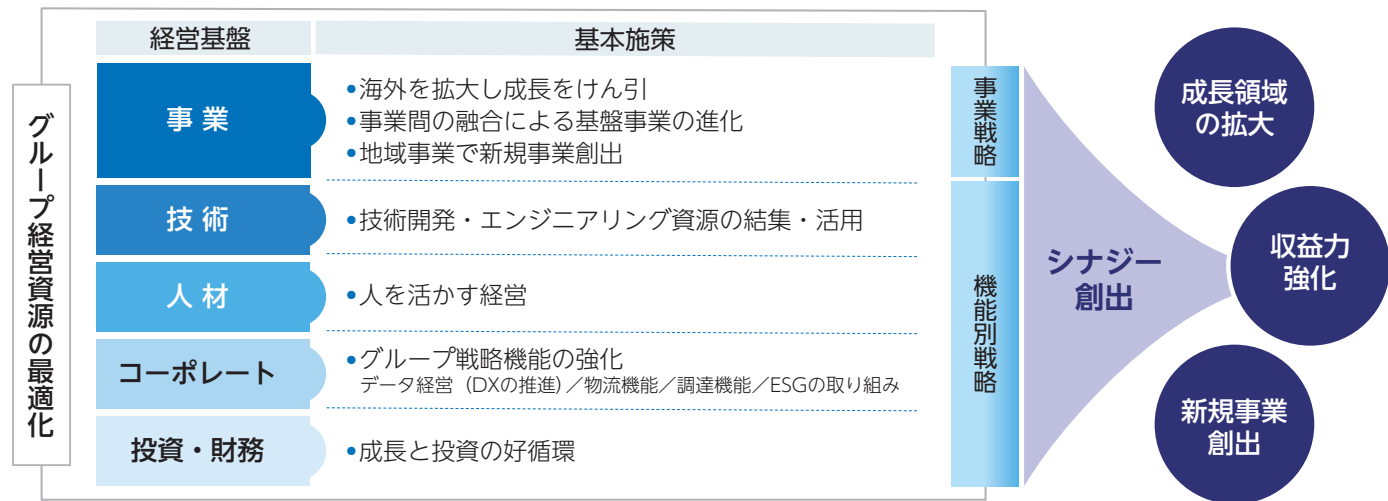
社会課題の解決を通じた新たな企業価値の創造

### 「terrAWell30 1st stage」(2022年-24年)

#### 基本方針

グループ経営資源の最適化によってシナジーを創出し、成長領域の拡大とともに、収益力強化と新事業育成を図る

本中期経営計画の鍵となるのは、グループ経営資源の最適化による「シナジーの創出」です。事業戦略だけでなく、技術、人材、コーポレート部門、投資・財務といった機能別戦略が掛け合わさることで、シナジーの創出を実現してまいります。



#### 経営目標

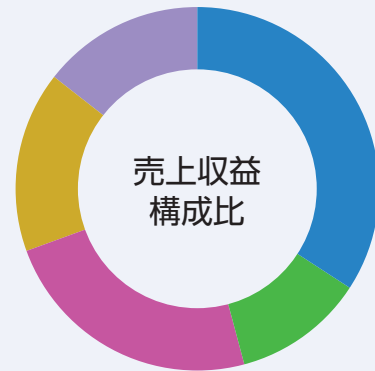
2030年に向けてのファーストステージとして、2022年度に売上収益1兆円をクリアし、2024年度には1兆2,000億円を目指します。国内の既存事業を中心に収益性の向上を図り、営業利益率が高く、市場成長が期待出来る海外事業の拡大を推進します。

(単位：億円)	前中計最終年度 2021年度実績	年平均成長率 CAGR (2021-24年度)	terrAWell30 1st stage 2024年度計画
売上収益	8,887	10.5%	12,000
収益性	営業利益(営業利益率)	652(7.3%)	1,000(8.3%)
	親会社の所有者に帰属する当期利益	432	630
	海外売上収益比率	8.6%	11%以上
資本効率性	ROE(自己資本利益率)	11.5%	10%以上
	ROIC(投下資本利益率)	6.6%	7%以上

※1億円未満四捨五入

# セグメント概況

当社グループは、2022年4月に組織改革を実施し、カンパニー制から、各事業のシナジー効果を最大限発揮出来るユニット制へ移行しました。「地球環境」と「ウェルネス」の2つの成長軸に沿って従来の6カンパニーと2事業部を4つの事業グループと13のユニットに再編しております。



デジタル&インダストリー  
34.2%

エネルギーソリューション  
11.7%

ヘルス&セーフティ  
23.6%

アグリ&フーズ  
16.3%

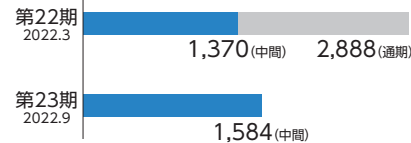
その他事業  
14.2%

## 地球環境

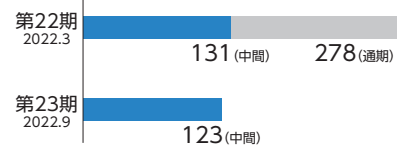


[売上収益] **1,584**億円

売上収益 (単位: 億円)



セグメント利益 (単位: 億円)



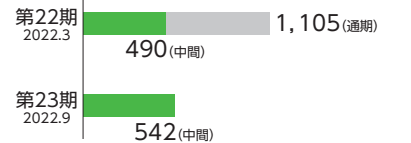
### 概況

半導体産業へのガス供給や関連製品の販売、インドにおける産業ガス供給事業が順調に推移。利益面では、電力料金の上昇に伴う価格是正の期間影響のほか、連結除外の影響があり、前年同期を下回る。

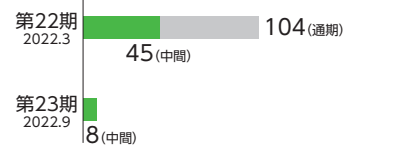


[売上収益] **542**億円

売上収益 (単位: 億円)



セグメント利益 (単位: 億円)



### 概況

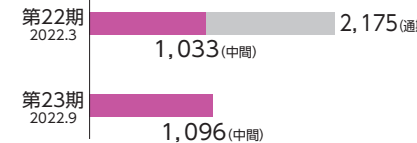
電力事業において、PKS（パーム椰子殻）や石炭の価格及び海上輸送コストの高騰継続に加え、石炭発電部分の燃料調整費転嫁の期ずれ影響や設備トラブルによる操業変動が重なり、極めて厳しい状況。

## ウェルネス(健やかな暮らし)

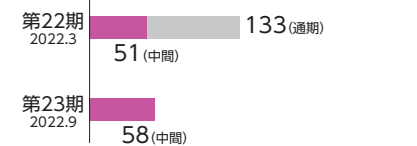


[売上収益] **1,096**億円

売上収益 (単位: 億円)



セグメント利益 (単位: 億円)



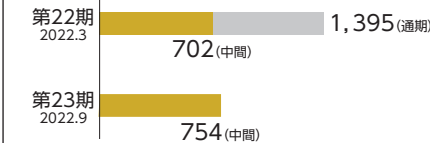
### 概況

「ウィズコロナ」への政策移行を踏まえ、医療提供体制の安定化に取り組む。在宅医療の提供、病院設備改修工事、SPD（病院物品物流管理）による効率化など、需要を着実に取り込み、すべての事業で増収。

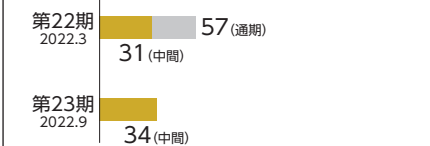


[売上収益] **754**億円

売上収益 (単位: 億円)



セグメント利益 (単位: 億円)



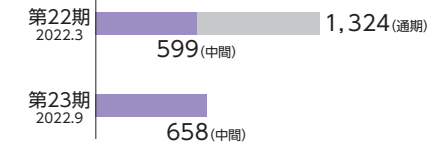
### 概況

「食」に対する顧客ニーズの変化を捉え、業務用食品の商品開発や拡販に注力した成果が表れ、順調に推移。また、各種原材料のコスト上昇による価格是正は概ね堅調に進捗。(株)プラスの連結効果もあり、売上・利益ともに順調に推移。

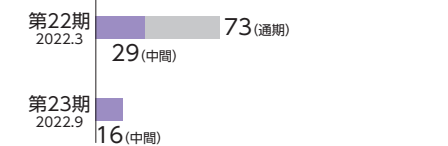


[売上収益] **658**億円

売上収益 (単位: 億円)



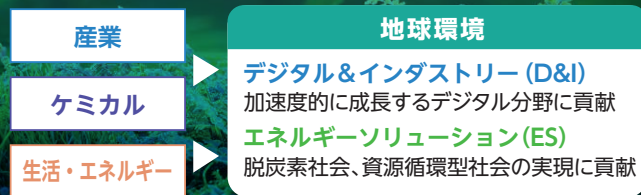
セグメント利益 (単位: 億円)



### 概況

物流事業は、幹線輸送の荷扱量増加や感染症廃棄物の取扱量増加により順調に推移。(株)日本海水は石炭価格の上昇影響、北米産業ガス事業は、ガス関連機器の受注は堅調に推移したものの、部材調達遅延等の影響を受けた。

# スマート社会、資源循環型社会の実現に貢献する「地球環境」



## 管掌役員インタビュー

### Q1 「地球環境」として今後どのような社会価値の創造を図っていきますか？

D&Iグループでは加速度的に成長するデジタル分野に貢献し、ESグループでは脱炭素、資源循環型社会へ貢献することで「地球環境」における社会的価値の創造を図っていきたくと考えています。

取締役 専務執行役員  
地球環境管掌  
兼 デジタル&インダストリーグループ担当  
**水野 和也**



### Q2 組織改革によって事業グループ間でどのようなシナジー効果を発揮することを期待していますか？

グループは2つ(D&IとES)に分かれています。エネルギー、ガス、化学品は同じ一連の流れにあります。別々の領域で運営していたこれらの事業を一体運営することで、収益性の向上、新たなビジネスモデルの構築につなげていくことが「地球環境」としての最初のミッションであると考えます。

### Q4 昨今、多くの企業が脱炭素社会に向けた取り組みを行っていますが、エネルギーソリューション分野において、特に力を入れている取り組みを教えてください。

まずは、北海道の「しかおい水素ファーム」や長野県の「地球の恵みファーム・松本」など、地域事業会社の機能を活かした地域密着型の取り組みに力を入れています。今後の目標としては、グリーンエネルギーの生産事業に参画し、LPガスの供給網や産業ガスの顧客関係をベースに当社独自の供給モデルをつくっていきたくと考えています。

### Q5 株主の皆様にお伝えしたいことはありますか？

我が国のあるべき姿、「スマート社会」をつくる「キーテクノロジー」として当社の成長をけん引してまいりますので、今後ご期待ください。

### Q3 世界的に半導体需要が急増していますが、半導体分野におけるエア・ウォーターの強みを教えてください。

半導体バリューチェーンの川上から川中、川下を幅広くカバーする事業群がD&Iグループとして一つの傘下に入ったことで、市場ニーズや開発方針がより複合的、総合的に議論・考察できるようになりました。これにより、中長期的な開発体制を整えることが出来るようになったことが最大の強みであると考えます。

## 注目事業紹介



半導体基板用特殊フィルム

デジタル&インダストリー

### 次期成長分野として注力、次世代基板材料事業

エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル(株)は、半導体封止材向け硬化剤(SKレジン)で培った技術力を活かし、エレクトロニクス産業への素材提供力を強化しています。超スマート社会移行に伴い市場ニーズが高まる高速通信用半導体材料の事業化を推進し、半導体基板材料として使用される各種特殊フィルムをターゲットとし、顧客での採用も開始されています。



機能材料ユニット長  
**堀 靖**



液化バイオメタンセンター工場

エネルギーソリューション

### 国内初、家畜ふん尿を原料としたカーボンニュートラルなエネルギーを製造開始

家畜ふん尿由来のバイオガスを原料とした「液化バイオメタン」を日本で初めて製造し、LNGの代替燃料として活用する実証事業\*を進めています。2022年10月に初出荷を行い、乳業メーカーのボイラー燃料に使用され評価を実施中です。カーボンニュートラルかつ地産地消のエネルギーとして、2023年度中の事業化を目指しています。

\* 環境省「令和3・4年度 地域共創・セクター横断型 カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に採択

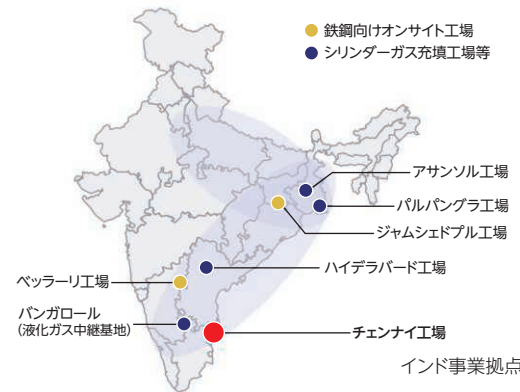


資源循環ユニット長  
**末長 純也**

デジタル&インダストリー

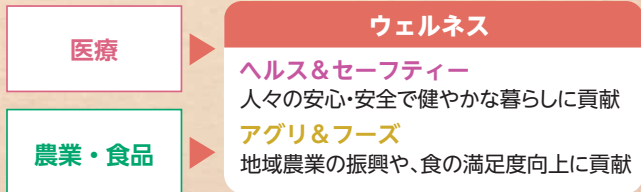
### インド初の自社液化ガス製造プラント、南部・チェンナイに新設決定

海外の産業ガス供給事業を全社成長のけん引役と位置付け、事業展開を加速しています。インドでは、産業ガスの製造・充填・輸送をはじめとした供給インフラを拡充し、チェンナイに液化ガス製造プラント新設を決定しました。自動車関連産業の一大集積地であるインド南部エリアのマーケットシェア拡大に向け、2024年10月の稼働を目指します。



海外・エンジニアリングユニット長  
**道谷 一夫**

# 超高齢社会において「ウェルネス」人々の暮らしに寄り添う



## 管掌役員インタビュー

**Q1** 「ウェルネス」として今後どのような社会価値の創造を図っていきますか？

医療／ヘルスケアや防災、農業や飲食に関わる製品やサービスを通して、国内外の暮らしに関わる社会課題の解決を目指します。具体的には、「超高齢社会」、「Well-beingの重視」、「衛生意識向上」、「食の安全保証」、「自然災害／BCP強化」、「食品ロス低減」といった課題に取り組んでいきます。

**Q2** 組織改革によって事業グループ間でどのようなシナジー効果を発揮することを期待していますか？

各事業で様々な技術を持っていますが、デジタル／AI関連技術を組み合わせる新たな技術やプラットフォームの創出を目指します。具体的には、2023年に開業予定の「健都イノベーションパーク」にて、ウェルネス(健やかな暮らし)を達成するために出来ることを医療のチーム、食品のチームがコラボレーションして立案、実行していきます。

**Q3** ヘルス&セーフティー分野において、今一番力を入れている、そして今後期待している研究・開発について教えてください。

従来は治療(急性期医療)が中心でしたが、今後は予防医療、予後・リハビリにも対応していきます。ヘルス&セーフティーでは歯髄をはじめとしたオーラルケア、アグリ&フーズでは機能性食品に注力し、予防医療への研究・開発を進めます。そして、医療従事者や患者様の通院負担軽減のため、遠隔医療の実現に向けて取り組んでいきます。

取締役 専務執行役員  
ウェルネス管掌  
兼 グループテクノロジーセンター長

原 圭太



**Q4** アグリ分野では、スマート農業の推進のために実際に取り組んでいることはありますか？

農作物の生育判断、収穫の自動化に取り組んでいます。また、水、温度、肥料などの最適供給をデータベース化して活用する「エキスパートシステム」の構築に向けて、東京大学、室蘭工業大学と共同研究を進めています。

**Q5** 株主の皆様にお伝えしたいことはありますか？

ヘルス&セーフティーでは、人の命と財産を守る新たな価値創出を図っていきます。治療だけでなく、予防医療、予後・リハビリにも拡大していくとともに、防災分野も注力します。自然災害・BCP強化は重要であり、防災分野を拡大することによって人々の安心・安全で健やかな暮らしに貢献していきます。アグリ&フーズでは、農産物や加工食品をタイムリーに需要家へ提供する体制構築を目指します。当社は道内に多くの拠点があり、加工、物流のノウハウもグループ内に持っています。これらを活かし、ブランディングを進めます。株主の皆様、「ウェルネス」の成長を大いに期待してください。

## 注目事業紹介



遠隔・在宅医療のスタートアップ企業(株)リモハブ

ヘルス&セーフティー

### 遠隔通信技術を活用したリハビリ領域に参入 在宅医療事業の拡大を推進

メインターゲットの急性期医療分野のみならず、回復期やヘルスケア分野へも事業領域を拡大。2022年3月にグループ入りした(株)リモハブでは、医療機関と自宅をクラウドでつなぎ、運動療法などを行う「オンライン心臓リハビリシステム」の実用化に向けた開発を進めるなど、超高齢社会に対応した事業の創出に取り組んでいます。



メディカルプロダクツユニット長  
小林 靖司



無菌常温充填ライン

アグリ&フーズ

### 道内の飲料需要に対応し、本州から北海道への輸送に伴うCO<sub>2</sub>を削減

脱炭素やフードロス削減などへの関心が高まる中、果実・野菜飲料などの受託生産を行うゴールドパック(株)では、環境に配慮した製品・サービスの提供に注力。北海道の恵庭工場に無菌常温充填ラインを新設、17種の容器容量、5種の液種に対応して本州から輸送していた道内販売分の一部を代替、輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。



ナチュラルフーズユニット長  
林 邦広

ヘルス&セーフティー

### 新設が相次ぐデータセンター向け窒素ガス消火設備の獲得に注力

エア・ウォーター防災(株)は、クラウドサービスの利用拡大などに伴い建設が相次ぐ、大型データセンターで使用する窒素ガス消火設備の獲得に注力しています。サーバールームなどの高度なコンピューターや関連機器に対しては、水を使った消火が適さないため、窒素ガスによって酸素濃度を下げて消火します。グループ内で製造する無停電電源装置などの提案も併せ、皆様のかけがえのないデータを守っています。



窒素ガス消火設備



防災ユニット長  
山本 智幸

# Information インフォメーション

## 会社の概要 2022年9月30日現在

商号	エア・ウォーター株式会社
設立	1929年9月24日
資本金	55,855百万円
従業員数	613名(連結:19,777名)
本店・本社	大阪市中央区南船場2丁目12番8号

## 株式の状況 2022年9月30日現在

発行可能株式総数	480,000,000株
発行済株式の総数	229,755,057株
自己株式数	820,961株
単元株式数	100株
株主数	25,192名

## 大株主(上位10名) 2022年9月30日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,272	14.53
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	14,700	6.42
三井住友信託銀行株式会社	7,936	3.47
日本製鉄株式会社	6,900	3.01
株式会社三井住友銀行	6,259	2.73
エア・ウォーター取引先持株会	5,839	2.55
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	5,148	2.25
株式会社北洋銀行	4,574	2.00
全国共済農業協同組合連合会	4,266	1.86
株式会社北海道銀行	4,113	1.80

## 株主メモ 2022年9月30日現在

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して  
定めた日

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

(事務取扱場所) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (通話料無料)

(ホームページURL) <https://www.smb.jp/personal/procedure/agency/>

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他の  
やむを得ない事由で行うことができない場合は、  
日本経済新聞に掲載します。

公告掲載URL <https://www.awi.co.jp/ja/ir/koukoku.html>

上場金融商品取引所 札幌、東京

地球の恵みを、社会の望みに。



環境に優しい  
「植物油インキ」を  
使用しています。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。